

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 80

2009年10月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

出始めた見事なシイタケ

シイタケ・ヒラタケなめこ 間伐材で生産！立派なキノコができました

雑木林応援隊

丸本久

私、雑木林応援隊に参加させて頂いて、丸二年が過ぎました。何も知らずに参加いたしました。先輩諸氏のご指導で色々勉強させて頂き、芝刈り、炭焼き等々、少しは手伝いが出来るようになりました。

昨年の三月からは茸の生産を任されることになり、こちらも特知識のないまま取り掛かり始めました。生産する種類は椎茸、平茸、なめこの三種類。それぞれ原木の種類も違います。椎茸は、クヌギ、コナラ、カシ等、平茸となめこは桜、けやき等といったように茸によつて分けました。

十二月～一月に応援隊が伐採し九〇cmほどに切り分けた原木に、三月上旬に植菌します。

昨年は椎茸、なめこには棒駒菌種菌を使用しました。棒駒菌種の場合は、原木にドリルで穴を開け、そこに菌を打ち込みます。(一本の原木に二〇～二五個ほど打ちました)

平茸はおがくず菌を使用しました。おがくず菌の場合はサンドイッチ方式と呼ばれる方式をとります。原木を三〇cmくらいに切り分け、

おがくず菌、おがくず、米ぬか水を練り合わせ、原木の切り口に塗って、その上に原木を重ねてサンドイッチ状にします。

その後、仮伏せ、本伏せという工程を踏んでいきます。仮伏せは、棒駒菌の場合は、原木を寝かせて積み重ねて、サンドイッチ方式の場合には立てたまま倒れないように寄り添わせ、ビニールシートを掛け、約四ヶ月程度その状態を保ちます。最初の一ヶ月は雨が降らなければ一日～二日に一度水をかけます。その後は一週間に一度程度になります。雨が降れば水をかけなくても問題はありません。

本伏せは、椎茸は百伏せにしました。なめこは原木を横に寝かせて土中に半分くらいまで埋めます。平茸はサンドイッチをばらして、縦に植菌部分を上にし、五～十cm位出して土中に埋めて、その上に茅を掛けました。椎茸は梅雨入り前がよいのですが、去年の場合は全て七月下旬にしました。

十一月中旬から、なめこ、平茸を収穫することが出来ました。椎茸はまだですが、今秋か、来春には収穫できると思います。今年の椎茸と平茸も、植菌をして、本伏せも終りました。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



親子農業体験講座

横山 さえ子

八月八日（土） 草取り

今日は二十九日に行く、そばの種蒔きの為ジャガイモ収穫後の畑の草取りの日です。

今日は欠席ですが飯田さんが事前に耕運機で耕やしてくれましたので草はあまり伸びていません。以前はジャガイモの収穫後一ヶ月半ほどそのまま放つて置いたら「夏草やつわものどもが夢の後」状態で、メヒシバやアレチノギクが生い茂り往生したものです。今回は余裕でサトイモ・サツマイモ畑の草取りも出来ました。これでそば蒔きの準備万端となりました。

八月二十九日（土） そばの種蒔き

そば打ちの第一歩、種蒔きの日です。

種は「常陸秋そば」と言う品種で茨城県農事試験場と金砂郷などの生産者が協力して作り上げたもので粒が大きいといわれています。しかし私は他の品種と比べた事が無い為参加者には「大きいそうです」と伝えていましたが、岩手出身の青木さんが「そのとつり大きいです」と言っていました。

種には産地生産者コードの入った保証票が付いています。優良種子として証明され発芽率八〇%と記されています。昨年度は経費を節約するため、自分達の収穫した種を使用しました。その結果は収穫量も少なく、製粉屋さんには「出来がよくないね」と言われてしまいました。我々と同量の種を蒔いたポークイスクウトの人は収穫量も上々の出来だったそうです。昨年の出来の悪さは自家採取の種子が一因だったのではないかと思います。そばを蒔く時期はお盆の頃（八月中旬）が良いと言われています。

二三年前九月中旬過ぎに参加者が持ってきてくれたダツタンそばの種を蒔いてみましたが、生育が

悪くほとんど収穫出来ませんでした。種の品質と種蒔きの時期が収穫量を大きく左右するようです。

今年も例年より六〇センチ間隔の列に蒔いて行きます。七年前に「ばら蒔き」と言う方法がありその方が楽ですよ」と言われましたが、機械で刈る場合はその方が楽かも知れませんが手刈りの場合は列になつてないと旨く行きません。そばは稲のように一度に実りません。実った種にふれるとポロポロと落ちてしまうので尚更です。

種、百グラムが入ったポリ袋を持って一列毎に蒔いてゆきます。

まさ君達・るなちゃん達・よしちゃんもお母さんと一緒に蒔きます。

「種は残ってもいいですよ。足りなくなってもいいですよ」と言つてあげました。皆さん楽しんで上手に種蒔が出来たようです。芽が出るのが楽しみです。



草取りをして、種を蒔いて、11時15分
例年より早く終了、皆で喜びの記念写真 09.8.29



巨木リサーチ2事業報告 戸塚 昌宏

フェーズ1とフェーズ2での写真Gの活動

平成十八年度に巨木リサーチ1（フェーズ1）がスタートして、三年が経過し、平成二十一年度から巨木リサーチ2（フェーズ2）が新たにスタートしました。当初、巨木リサーチ1では写真グループ（G）は七名の登録がありましたが、リサーチ2では五名で再スタートしました。

はじめに巨木リサーチ1での樹木の撮影活動を振り返ってみます。初年度は平成三年牛久市条例で指定された牛久市内の代表的な巨木「市民の木」四十一本の内、指定解除二本・伐採一本・枯死一本を除く、三十七本を撮影しました。巨木は主に神社・寺院の境内に生育していました。神社や寺院の境内の「市民の木」は樹木の密集している場所が多く、昼でも薄暗く足場が悪いうえ、夏場はヤブ蚊に悩まされ、撮影には大変苦労しました。薄暗い場所ではカメラの露光感度（ISO）を上げ露出を補正して、かるうじて撮影できた所もありました。今はデジタルカメラで撮影できますので、液晶画面を見て写り



写真1. ムクノキの幹の打音診断
09.7.25



写真2. マダケ除去による
スタジイの生育環境整備
09.7.5

具合を確認出来ずのもも助かります。

二年目は、「市民の木」以外の神社や寺院の境内にある六十八本の樹木の撮影を行いました。巨木と幹周り三メートル以下の古木及び「牛久市の希少木」を対象にしました。最終年の平成二十年度は主に個人所有の巨木・古木・「牛久市の希少木」を撮影しました。個人宅の撮影では、市緑化推進課の担当者より先方の都合を聞いてから行ったため、最適な時期に撮影に行けませんでしたので、思うような撮影が出来ませんでした。巨木リサーチ1の三年間で牛久市の巨木は神社仏閣の境内でかるうじて守られているのが分かりました。

つぎに巨木リサーチ2の活動について述べます。

樹木の健康状態を診断する「診断グループ」（写真1）、樹木に絡んでいるキツタの除去や竹・雑木を伐採して樹木に光が当たるようにして樹木の生育環境を良くする「管理グループ」（写真2）、フェーズ1の成果を一般市民に広報・普及するための巨木ガイドツアーを行う「ガイドグループ」（写真3）が発足し、活動を進めています。「写真グループ」の活動は前記の活動について、活動前・活動中・活動後の状況や様子を撮影し、記録として残

して報告会・展示会等に提供します。「写真グループ」では、撮影した画像ファイルをインターネット・ヤフーグループのサービスを利用して登録し、グループ間の共有情報として公開・利用しています。フェーズ1では「写真グループ」の成果について、三年間で三回の一般公開報告会のなかで、スライド映像を見ながら樹木の原産地や特性・花・果実等の説明とあわせて、写真展示により報告を行いました。フェーズ2でも来春、成果の展示報告会を計画しています。

活動成果の広報・普及の点では、本年六月七日に市民を対象とした「巨木のガイドツアー」が実施され、当初応募者があるか危惧していましたが、定員を超える応募があり、地道な三年間の努力が報われた思いを強くしました。市民の巨木や環境等への意識の高まりを感じました。これから写真を通じた樹木や環境の大切さを市民にアピールして行きたいと思います。



写真3. 八幡神社境内の土俵の前で
説明を聞く参加者
09.6.7

寄稿欄

チーム街路樹20受託事業報告

増田 勝彦

「紅葉と緑陰の大木を育てよう」活動スタート

九月、牛久運動公園のハナミズキの葉がうすく色づいている。排気ガスの洗礼を受けていないせい

か、葉脈もはつきりみえる。チーム街路樹20は一昨年夏から、市内街路樹約六千本と、中央生涯学習センター等、「公共の場」

五地点の樹木調査をした。資料を基に、紅葉する街路をウォッチする。中央生涯学習センターには、カエデ科のイロハモミジが六本ある。近くにあつた国の天然記念物ハナ

ノキは、この夏樹齢若くして、突然真っ赤に紅葉した直後に枯れてしまった。中央図書館前の街路樹は、マンサク科のモミジバフウだ。同敷地の奥にはイロ

ハモミジが数本あり、読後の目を癒すのに最適。玄関脇には、トウカエデの改良品種ハナチルサトが二本植えられたが、葉の色が四季折々変化するという

珍しい木だ。駅西口のイズミヤ入口の信号から刈谷団地はトウカエデが一九四本、落葉前に剪定されて

紅葉時は少々寂しい。比べて、ひたち野うしくのスーパークラスと成長中。見渡すと樹上に電線が無く、環境に恵まれている。同駅周辺を歩くと、中国原産のナンキンハゼに出会う。ハート形に近い葉っぱは清楚

で、直線道路の木としては市内最大数を誇る。牛久駅東口入り口の県道「けやき通り」のケヤキは強剪定されたため、今はヤナギのような樹形になってしま

まい、ひっそりとたたずむ。「花水木通り」のトチノキは、掌を広げたような大きな葉が印象的で、洋服の青山から図書館方面に一二本あるが、褐葉で

地味。最後に「街路樹として人気があり、「生きていく化石」といわれるメタセコイアは、市役所裏口の近隣公園に沿って二〇数本。ひたち野うしく駅に通

じるメタセコイアは整然と林立して、外国にタイムスリップしたような気分が味わえて楽しい。七月に研修見学会で訪れた松戸市常盤平には、非

剪定地域がある。大木が多く、紅葉・新緑時の美しさは住民にとって格別だろう。しかし、剪定を免れるためには、落葉が生活に支障をきたさないよう、

落葉中の清掃が必要となる。二十一名の街路樹メンバーは今秋から、市と協働で設定したモデル地区二か所で落ち葉かきを始める。紅葉と新緑の自然溢れる街を目指して、住民参加の協働事業に育つことを狙っている。



ナンキンハゼの街路 増田



あやめ園一年生の振り返り

廣川 智一

あやめ園一年生の振り返り 私がうしく里山の会へ入会してからまる一年になりました。入会前から公私にわたりお世話になって

いた先輩のSさんに声をかけていただいたのがきっかけで、アヤマプロジェクトへ見習い参加をしたのが昨年の九月始めでした。初日の見習い作業を無事にパスして正会員となり、

その後週に二回の定期作業を続けてきました。最初は活動の全体像がわからず、言われるままに作業をしてきた私ですが、この頃は何となくですが活動の姿が見えてきたような気がします。わずかな経験

ではありますが、この紙面をお借りして活動報告をさせていただきます。最初の作業は雑草取りでした。ぬかるんだ田圃にしゃがんで雑草を取り除いていく作業は年間を通して

の大切な作業の一つです。慣れるにつれ、株分けや株を植え直すための畝作りに加わったり、肥料撒きをしたり花殻摘みもしました。また、園路の雑草の刈り払い作業などにもたずさわれるようにもなりました。これらが私のアヤマ園での一年目の作業のあらましだったので、熟練とまではいかなくともそれなりの活動はできたと思います。真夏の炎天下で雑草と格闘しながら額に汗したり、寒い冬の日にかじかんだ手をもみながら行う作業は辛い面もありますが、一方では楽しく充実した面も

見学者の方との間には楽しい会話も生まれます。ある日の作業中にこんなやり取りがありました。見学者の方に『今何をしているんですか?』と尋ねられましたので、メンバーのMさんが『草取りをしているんですよ』更にニヤニヤしながら『アヤメを取っている訳ではないんですよ!』と冗談を言ったら、見学者の方は『・・・まいったな、楽しい人たちですね』とのことでした。

そんなこんな的一年間を振り返ってみると、自分の好きなことを自分だけのペースで過ごすよりも、ある程度節度のある時間を生活パターンに組み入れたことにより、メリハリのある充実した日々を過ごすことができました。今後も心身両面の健康維持のため、楽しみながら出来るだけ活動を続けていきたいと思っています。



ぬかるんだ田んぼに足を取られながらの
畝作りと株分け 坂 09.8.13



里山自然観察隊事業報告

平塚 芳雄

第三回植物ガイド

「湿地植物の形質を見る」を開催

九月十二日(土)、標記のテーマで「植物ガイド」を実施。一般参加者の事前申込みは少なかつたが、連絡なしの当日参加もあり、一般参加者五名、里山の会・会員十一名、計十六名に。天気は予報とは異なり一時本格的な雨に、傘を差しての観察会になる。観察コースも当初の予定を一部変更、観察の森の園内から始めることに。

集合時刻である午前九時、参加者が揃ったところで、渡辺さんの解説で活動開始。今回は湿地に多いカヤツリグサ科とイネ・イグサ科植物の主な形質の比較についての学習。

ペーパー資料の他に、現物七種(イ、イヌビエ、イヌホタルイ、ウキヤガラ、クログワイ、カヤツリグサ、ヨシ)を渡辺さんが用意。参加者に配り、各自が目で見ても手に触れて直接感じることで理解も深まる。

その後、出発。途中、コジユケイの林に立ち寄り、下草刈りの時保存のため刈り残されたママコナを数株確認。未だ小さな白い花を付けていた。

ネイチャーセンター前では標本展示されているコウホネ、ヒメハツカ、アカバナ等十種程の湿地植物を見る。

続いて、森を抜け、県道を渡り西へ。エビヅルとノブドウが対比できるような状態で生垣に絡んでいる所がありエビヅルの実を試食。食べられる。

目的地の下柏田の湿地には十時過ぎに到着、水は殆どなく草は刈り払いされていたが、草丈が低い小さな湿地植物を何種も確認。皆さん長靴履きなので湿地に入り込んで観察、渡辺さんの解説を聞く。ミズニラについては掘り出して根の部分を含め観察。

此処では湿地植物の他にも多くの生き物と出合った。シヨウリヨウバツタ、カエル、ザリガニの穴、へび(ヒバカリ?)までも。メンバーのYさんは慣れた手つきでそのへびを取り上げ右腕に乗せ、危険性がないことを実証、解説。

此処は一七五坪程のさほど広くない土地だが適度に管理され農薬の使用もない由が、かなりの種類の生き物が生息している様子。

一部稲刈りが済んだ水田が続く農道を小野川の堤防に向かう。小野川の川原には流れに近い方から順に、ガマ・マコモ、ヨシ、オギ等も見られ、草木が繁茂した中にイヌクイモの黄色の花が目立つ。堤防沿いにはハンノキ、イヌコリヤナギ、オニグルミの木本種も。実を付けたハンノキを梢まで覆っている外来種のアレチウリ、在来種のクズとの競合も。

今回雨に降られ時間を三十分程短縮しての観察活動であつたが、実りの秋を実感し百種以上の植物を確認でき午前十二時には森の駐車場に無事帰着しました。



傘をさしての植物観察・平塚・09.9.12



三富企画展「三富をつつし」に参加して
坂 弘毅

三富とは、皆さんなじみが少ないかと思えます。三富とは、埼玉県の川越近郊に広がる新田を指し、三富新田と書いて「さんとめしんでん」と読みます。

ここは、江戸時代川越藩主であった柳沢吉保によって開拓された新田で、短冊形地割りによる循環型農業の手法とされている場所です。ここには武蔵野の雑木林が広がり、ここで活動する農家、NPO法人、企業などが三富新田を保全しながら歴史的遺稿を保全しています。

今回は、三富新田で活動する団体やNPO法人、個人が一堂に会し、「先人から受け継がれた知恵」と題して企画展が開催されました。うしく里山の会は十一月に里山秋祭りを開催する予定ですが、その里山秋祭りのヒントを探すべく、会のメンバー三名で参加しました。

広大な敷地で行われるイベントと期待していましたが、会場は川越の蔵のまちに近い、イベント会場で行われていました。NHKの連続テレビ小説「つばさ」の舞台となっている川越ですから、会場内にはテレビ小説の舞台などもセットされ来場者の注目を集めていました。会場内を進むと、三富の木材を利用した家具(テーブル・椅子・ベンチ他)など、木材の質感を生かした高級感あふれる物ばかり。それらは、手が出ないほど高価な物でした。

さらに歩を進めると、里山の素材を使った趣味のグループのコーナーに出ました。バードカービングを四〇年もやっている関さんという元気なおじさんは、実物大のフクロウやオオタカ、コミミズクなど本物そっくりの作品には目が点になりました。その横ではドングリの殻斗(かくと)を繋げてつくった芋虫は大いに参考になりました。



孟宗竹で作ったスタードームには願いの短冊が
いくつも下がっていました 坂 09.9.22

さらに別のブースでは、孟宗竹を割いて繋げてつくった大きなスタードームでは、檜の薄い板の短冊に願いを込めてドームにつり下げた光景は里山秋祭りにも参考にできそうです。さらに、間伐材を利用したブローチ、キーホルダー、根付け、置物、コマ等々、狭い会場で、大きな収穫を得た感じがしました。

三富新田の見学は十一月中旬に改めて実施します。柳沢吉保の先進的な農政とその遺稿をつぶさに見学します。面積三二〇〇haという広大な地域をここを担当する埼玉県の職員により案内をいただきます。そして、三富新田の雑木林の管理を進めてきたNPO法人元理事長の生のお話も伺えることになっていきます。



森の再生と心の再生にエコアップ
佐藤 輝雄

私が観察の森「エコアップ作戦」に参加して二年余りになる。

「エコアップ作戦」はうしく里山の会・会員をメンバーとして、観察の森の中で荒れたところを中心に作業を進めている。二丁三メートルくらいに伸びたアズマネザサの群生との戦い、立ち枯れた松や桧・杉等の伐採をおこなう。従って刈払い機やチェーンソーの活躍が中心になっている。夏にはやぶ蚊の大量に襲われながら、汗まみれになっての作業にはかなりの体力が必要になる。しかし、大木を倒したときや刈払い機での作業では日頃のたまったストレスの解消には最高である。そして家に帰ってからの晩酌のビールで苦労も吹き飛んでしまう。本当に気持ちのよいものである。皆さんも是非参加しませんか。



雑草と格闘するSさん
佐藤 09.9.20



伐採に奮闘するMさん
佐藤 09.9.20



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

本年六月に申請いたしました「茨城県元気な森林づくり活動支援事業」の補助金二十五万円の交付通知がうしく里山の会事務局に届きました。補助金は活動に使用する備品や消耗品の購入の他、活動紹介パンフレットや郵送費等に充てる予定となっております。これを機に、より多くの皆様にご参加いただき、美しい里山の風景づくりにご協力いただければと思います。

十月は二日（金）と十八日（日）の実施となります。今回の活動場所は第二駐車場付近の杉林です。元気な森づくりを行います。

活動日時 十月二日（金）午前九時～十一時半・十八日（日）午後一時～三時半
集合場所 ネイチャーセンター一階倉庫前
 （予約不要/雨天・強風時は中止）

持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物（長袖、長ズボン）
 会ホームページに情報掲載）

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りませす。
 （問い合わせ先）029-874-6600 担当：石神



牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

森のスケッチコンテスト表彰式を開催します

開園二十周年を記念して夏休み期間に実施しました小学生まで対象の「おもしろ生き物発見、森のスケッチコンテスト」、最終的に合計三百枚の応募が

あり、審査集計が大変になるほどの大盛況となりました。

各賞の選考も終了し、表彰式は十月十日土曜日にネイチャーセンターで開催の予定です。また、惜しくも各賞の選考に漏れてしまった作品も、十月十日土曜日から十月十八日曜日までの期間、牛久自然観察の森の園内各所（園路）にて、全てを野外掲示いたします。

開園以来、園路に子どもたちの作品が多数掲示された事は無いので、スケッチコンテスト同様、こちらも初めての試みとなります。夏に出会った子どもたちが、再度、観察の森に足を運んでくれる事を期待して、レンジャー一同準備を進めています。芸術の秋、ぜひ皆さんも子どもたちの作品を鑑賞に森へいらつしやってみてください。

【スケッチコンテスト作品展】

開催期間 十月十日（土）～十月十八日（日）
 十三日（火）、十四日（水）は休園日
開場時間 午前九時～午後四時四十五分
 （お問い合わせ）029-874-6600 担当：筈谷

「うしくの里山フォトコンテスト」

一般投票にご参加ください！

実行委員会事務局 阿部幸浩

一次審査を通過した作品（約六十点）を十月十八日（日）から三十一日（土）まで牛久自然観察の森ネイチャーセンターに展示します。牛久の魅力を再発見してはいかがでしょうか。お気に入りの写真を見つけて投票してみてください。

好評につき十月十六日（金）まで応募期限を延長しました。みなさんお気軽にご応募ください。

今月の古木・希少木 No.30 キンモクセイ

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木。雌雄異株。中国原産。日本では雄株のみ植栽されているので、ふつつ結実は見られません。高さはふつつ三～六mで、大きいものは10mを超え、よく枝分かれし葉を密につけます。樹皮は淡灰褐色です。葉は対生し革質で硬く、先端部にごく細かい鋸歯があります。葉の表は濃緑色で光沢があり、裏は淡緑色で先端は尖っています。花期は十月、葉のわきに橙黄色の小さな花を多数束状に咲かせます。花は直径約5mmで四裂し、強い香りを漂わせます。この香りで秋の到来を感じさせられます。花が白色のものをキンモクセイといつて、キンモクセイにくらべると香りはやや弱い。

「牛久市の木」に指定されております。このためか、庭・街路などによく植えられているのを見かけます。その強い芳香に、しばし癒されています。多くの植栽樹は写真のように剪定され、丸く整えられています。正直町に幹回り百四十三cmの古木があることが巨木調査で分りました。

（石川満夫）



牛久駅東側広場のキンモクセイ
07.10.28 渡辺

10月の里山カレンダー

活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
				1 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	2 Eコップ作戦 9:00NC 森の畑 9:30畑	3
4 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関	5 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	6 森の畑 9:30畑 自然観察出前講座 10:00向台小学校	7	8 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	9	10 里山自然観察隊 9:00森P 親子農業体験講座 9:00畑 (会報等原稿×切)
11 雑木林応援隊 9:00ムジナ	12 (体育の日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	13 (休園日) 森の畑 9:30畑	14 (休園日)	15 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 自然観察出前講座 上町保育園 9:00保育園前集合	16	17 フォトコン実行 委員会 9:00三日月橋公民館
18 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC Eコップ13:00NC	19 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	20 森の畑 9:30畑 チ-ム'街路樹20(受) 8:30市役所玄関 (研修会)	21 チ-ム'街路樹20(受) 17:00解散予定 (研修会)	22 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	23	24 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関 チ-ム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会) 親子農業体験講座 9:00畑
25 雑木林応援隊 9:00炭小屋	26 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	27 森の畑 9:30畑	28 会報発送 13:00NC	29 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 自然観察出前講座 (第2幼稚園) 9:30牛久小P	30	31

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

九月号に「ヒガンバナ」の記事がありました。私
が子どもの頃、過ごしたつくば市ではラント(ラン
トウ)花と呼び住人には嫌われている花でした。花
が真っ赤で葉がなく毒々しいこと、墓地に多く花が
咲くことなどが理由だったと思います。その後はN
HKの趣味の園芸等で「曼珠沙華」として取上げら
れ見直されてきたようです。

ラントウとは茨城の方言で「墓」とありますが、
広辞苑で調べますと「卵塔・無縫塔転じて墓石、卵
塔場 墓地」となっています。方言でもなさそうで
す。

「ヒガンバナ」は全国的にも異名が多く、(シビ
トバナ・ジゴクバナ・ユウレイバナ・)不吉な呼
び名を含めて約千通りあるようです。しかし、韓国
では、想思草(サンシチョ) 花は葉を思い葉は花
を思う「葉不見花不見(ハミズハナミズ)」と思う
心の意味を持った呼び名もあります。

つい最近、春の七草を記したような気がしますが、
もう秋の七草。秋の七草は、女郎花(おみなえし)・
尾花(おばな)薄(すすき)・桔梗(ききょう)・
撫子(なでしこ)・藤袴(ふじばかま)・葛(くず)・
萩(はぎ)を指しますが、簡単な覚え方として「お
すきなふくは」とあります。

春の七草は食べる楽しみ、秋の七草は花野を散策
して短歌や俳句を詠むことが古来より楽しまれてき
ました。

「秋の野に 咲きたる花を 指折り(おゆびおり)
かき数ふれば 七種(ななくさ)の花 萩の花 尾
花葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝貌(あさ
がお)の花」 山上憶良

この歌が秋の七草の由来のようです。

雑木林の斜面に墓地があり、周りには彼岸花や秋
の七草が、そして近くにはイネのおだかけの風景。
まさに里山の風景ですね。この文章を書きながら子
供のころを思い出しました。(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号11月号の発送は10月28日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンター
までお越しください。よろしく願いいたします。